

# 第2次安来市 DX 推進計画(案) -概要版-

## I DX推進計画策定の目的・趣旨

### 第1次計画からの発展(フェーズの移行)

第1次計画(計画期間:令和5年度(2023年度)~令和7年度(2025年度))で構築した「デジタル活用の土台」を基盤に、本計画は市民がデジタル化の恩恵を直接実感できるサービスを創出する「本格展開・価値創造フェーズ」と位置づけます。

### 人口減少社会における経営戦略としてのDX

「安来市人口ビジョン」が示す令和52年(2070年)の人口減少(予測:約1.46万人、目標:概ね2.01万人)を見据え、従来のアナログ・対面を前提とした業務プロセスやサービス提供体制をデジタルで「変革(リデザイン)」します。

### 持続可能な行政経営と幸福度の向上

単なるITツールの導入にとどまらず、人口減少下でも市民生活の質や地域コミュニティを維持するための「行政の持続可能性」を確保し、市民の「地域幸福度(Well-Being)」をデジタルで確かなものにすることを目指します。

## 2 計画の位置付け・計画期間

### 計画の位置付け:総合計画のビジョンを実現する「分野別計画」

本計画は、安来市の最上位計画である「第3次安来市総合計画」の分野別計画として位置づけます。総合計画が掲げる将来像「ワザを磨き、安らぎをつむぎ、シンカするまち」の実現に向け、あらゆる施策にデジタル技術を掛け合わせることで、3つのシンカ(真価・深化・進化)を加速させる役割を担います。

### 計画期間:令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)の5年間

国の「自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」や、第3次安来市総合計画(前期基本計画)と期間を整合させています。

### 情勢変化に応じた柔軟な見直し(ローリング方式)

生成AI等の急速な技術革新や、国の「地方創生2.0」等の政策動向を適時反映するため、毎年度の進捗評価に基づき、必要に応じて施策の追加や見直しを行う柔軟な運用を図ります。

### 3 安来市DX推進の基本理念

#### 基本理念：

デジタルで、安来の「真価」を磨き、市民の暮らしを「深化」させ、  
次世代へ「進化」するまち

～使いたくなる、寄り添うデジタル～

#### ALL YASUGI(オールヤスギ)での推進

人口減少等の課題に対し、市民・地域・行政が一体となって「誰一人取り残さない」安心して  
住みやすいまちづくりを推進します。

#### 3つの「シンカ」による具現化

##### 深化(Deepening)：

データ活用により一人ひとりのニーズを把握し、市民に寄り添う「伴走型」サービスを実  
現します。

##### 進化(Evolution)：

先端技術を柔軟に取り入れ、組織と地域をアップデートし続ける次世代のための挑戦を  
後押しします。

##### 真価(Value)：

デジタル技術による窓口改革や業務プロセス効率化(BPR)により、市民サービスの向上  
とともに、職員が市民に寄り添う相談や創造的な政策立案に注力できる体制を築き、地域  
の価値を最大化します。

#### 3つの基本方針

##### (1) 深化(Deepening)

市民が安心できる、快適なまちづくりの実現

～上質な環境づくり、市民生活向上のためのDX～

住民のWell-Being向上を目的とし、健康・福祉・防災等の準公共分野でのデータ活  
用を推進します。あわせて、デジタルに不慣れな方への寄り添い型支援を強化し、地理的・  
世代的格差のない上質な生活環境を構築します。

## (2) 進化 (Evolution)

### 市民と一緒にすすめる、地域の活性化を実現

#### ～地域産業発展、活性化のためのDX～

地域経済の持続可能性を確保するため、地場産業のスマート化を伴走支援します。また、地域交通の利便性向上、地域独自の資源（自然・景観・文化・歴史等）及び「ものづくりのワザ」を蓄積したデジタル資産の活用による官民共創等により、地域の稼ぐ力を最大化させます。

## (3) 真価 (Value)

### 市民の視点で実行する、暮らしのための行政サービスの実現

#### ～市民サービス向上に向けた庁内業務のDX～

「書かない・待たない・行かない」窓口（自治体フロントヤード改革）を全庁へ展開し、市民の負担を軽減します。徹底したBPRとAI共生型組織への転換により、職員がより付加価値の高い相談支援や政策立案に注力できる「真の行政サービス」を提供します。

## 4 安来市のDX推進スケジュール

推進スケジュールについては以下のとおりとします。なお、年度末に進捗レビューを行い、社会情勢や技術動向の変化、国の指針改定等に応じて、柔軟に計画を修正するものとします。

### DX推進スケジュール

区分	令和8年度 (2026年度) Phase 1「真価」 (価値創造基盤の完成)	令和9年度 (2027年度) Phase 2「深化」 (寄り添いの加速)	令和10~12年度 (2028~2030年度) Phase 3「進化」 (変革の定着)
計画のフェーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本格展開・基盤完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>価値創造の加速</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成熟・次期計画準備</li> </ul>
情報システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準化・ガバメントクラウド移行</li> <li>BPR(業務プロセス効率化)の徹底実施・本格運用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準準拠システムの安定運用</li> <li>運用データの利活用による高度化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムの継続的な改善</li> <li>次期システム更新への備え</li> </ul>
自治体DX	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体フロントヤード改革の横展開</li> <li>オンライン申請の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体フロントヤード改革の深化(データ連携の開始)</li> <li>行政運営の高度化(EBPM(客観的なデータに基づく政策立案)の実装・可視化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI共生型組織の定着</li> <li>UX(住民体験)/UI(操作性:画面の見た目や操作のしやすさ)の最適化</li> </ul>
地域DX	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療MaaS、バスロケーション等の実装開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提供エリアの拡大・利便性向上</li> <li>デジタルID・デジタル証明等の技術的選択肢の調査・検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域価値の最大化</li> <li>地域課題解決へのデータ活用</li> </ul>
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>DX推進リーダー(第2期)の選任、集中研修実施(業務効率化編)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DX推進リーダー(第2期)の集中研修実施(市民サービス向上編)</li> <li>階層別研修・全職員のリスクリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルマインドの組織的定着</li> <li>自律的改善サイクルの確立</li> </ul>
管理・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次アクションプランの策定・公表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年次レビュー・プラン更新(EBPMに基づくKPI(重要業績評価指標)評価の公表を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次計画の総括と第3次計画の策定準備</li> </ul>